

7月から
始まる

「再生可能エネルギーの 固定価格買取制度」ってなに？

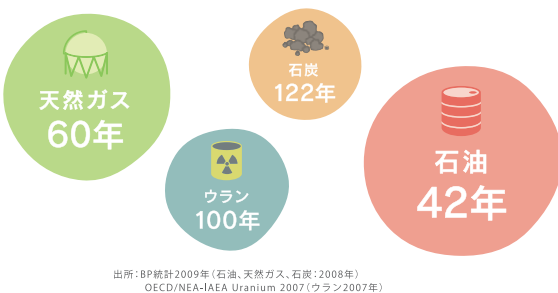
今や誰もが無関心ではられないエネルギー問題。資源の少ない日本がこれからも十分なエネルギーを確保するうえで、再生可能エネルギーの普及は大きな鍵となります。そこで「わかるわかる運動」が、7月から始まる「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」について解説します。

Q1.なぜ再生可能エネルギーが必要なの？

日本のエネルギー自給率は約4%と低く、そのほとんどを輸入に頼っています。化石燃料の埋蔵量には限りがあり、価格の高騰も予想されます。また地球温暖化防止のため、二酸化炭素(CO₂)の排出量削減は大きな課題です。このようなことから、今注目されているのが再生可能エネルギーです。一度、設備を整えれば、風、太陽、地熱など自

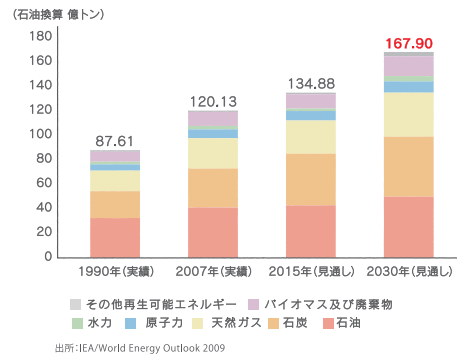
然の力で繰り返し電気を生み出すことができるエネルギーのことです。このエネルギーが普及すれば、化石燃料の輸入を減らすことができ、日本のエネルギー自給率をあげることができます。発電する時にCO₂をほとんど排出しないので、地球環境にも大きく貢献します。

化石燃料の残り資源量(2008年)

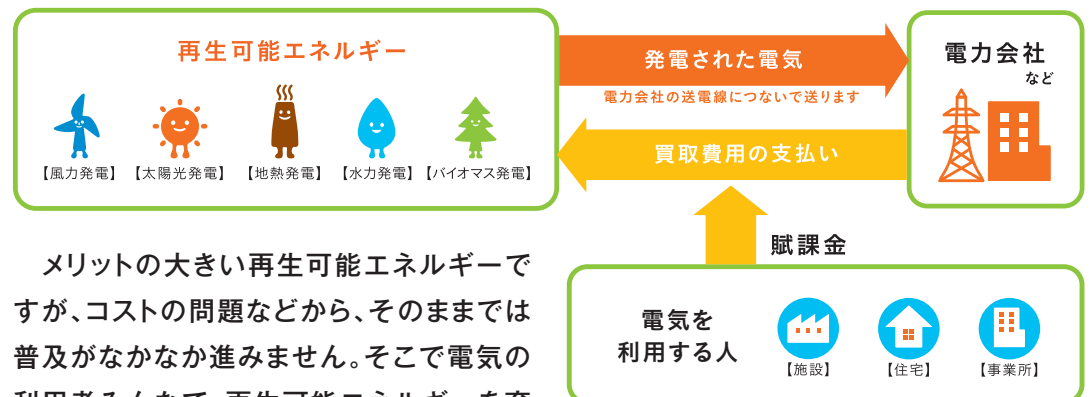


出所：BP統計2009年(石油、天然ガス、石炭：2008年)
OEC/NEA/IEA Uranium 2007(ウラン：2007年)

世界のエネルギー需要の見通し



Q2.固定価格買取制度ってどういうもの？



メリットの大きい再生可能エネルギーですが、コストの問題などから、そのままでは普及がなかなか進みません。そこで電気の利用者みんなで、再生可能エネルギーを育てる仕組みが、7月から始まる「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」です。この制度では、再生可能エネルギーで発電された電気を、電力会社が一定期間、一定の価格で「固定価格」で買い取ることを国が約束します。そのため発電設備を導入するコストの回収見通しが立ちやすくなります。より多くの人が発電設備を導入しやすくなり、普及が進むと期待されているわけです。電力会

社が電気を買い取るためのお金は、電力を利用する一般の人から、毎月数十円の賦課金というかたちで集めます。

この制度では太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど、国が定める要件を満たす設備で新たに発電を始める場合、発電する電気のすべてが買取対象となります。また住宅等での太陽光発電は、余剰電力の買取となります。

Q3.制度によって日本の社会は変わるの？

この制度により、再生可能エネルギーが育ち、普及していくことで、私たちの暮らしを支えるエネルギーの一つになることが期待されています。CO₂の排出量も減り、地球環境にやさしい社会が実現します。再生可能エネルギーの普及を通じてさまざまな技

術が磨かれ、新しい産業、雇用が生まれ、大きな経済的効果が期待できます。このように再生可能エネルギーを育てることは、日本社会全体にとってとてもいいことなので、みんなで協力し、支えていく必要があるのです。

日本全国で取り組みが進む 再生可能エネルギー

すでに再生可能エネルギーは、日本各地でさまざまな取り組みが進んでいます。太陽光発電の導入は、この10年間で約8倍になり、近年は産業用や公共施設での導入が増えています。風力発電も2000年以降、導入件数が急激に増え、小型風力や洋上風力などの新技術が登場しています。動植物などから生まれる資源を使ったバイオマス発電においても技術開発が進み、農山漁村の活性化につながる取り組みが始まっています。すでに成熟した技術がある水力発電は、今まで未利用だった中小規模の河川や農業用水路などでの利用が広がっています。また安定して発電でき、排熱をハウス栽培や養殖などに利用できる地熱発電にも注目が集まり、新たな導入が始まっています。



「みんなの育エネBOOK」ウェブで公開中

みんなで再生可能エネルギーを育てる「育エネ」について、わかりやすく紹介しています。

育エネ 検索
<http://www.enecho.meti.go.jp/saiene/ikuene/>



わかる
わかる
運動

なるほど！
環境にやさしいエネルギーを
みんなで育てる制度なんだね